

「出題の意図」

| | |
|----------------------------|--|
| <p>選抜区分</p> | <p>2022 年度 （選抜区分：一般選抜後期日程） 文学部人間関係学科</p> |
| <p>出題の意図 (評価のポイント)</p> | <p>1. 出題の背景・求める能力 後期日程の試験科目である集団討論は、与えられた討論テーマに基づいた数人の受験生による討論である。テーマを設定した討論場面において、自分自身の見解をテーマに沿って論理的・独創的に表現できる能力、情報提供や意見調整など円滑なコミュニケーションを進める能力、集団の中で適切なかたちでリーダーシップを発揮していける能力などが求められる。</p> <p>2. 解説 今年度の集団討論は、1 試験室につき受験生 6～5 名を 1 グループとして 3 つの試験室で同時に進行し、それを 3 回繰り返す形で進めた。同時に行う 3 試験室は共通する討論テーマとし、各回は別のテーマを使用した。本年度の出題の特色として、課題文とそれに付随するデータが与えられた。受験生はデータから読み取れる結果について提示し、それを起点に個々の意見や論点を比較したり集約することで、建設的な討論を実施することが求められた。以下、テーマごとに解説する。</p> <p>【集団討論 1 回目】 解説：「外国人との共生」が討論テーマである。法律改正に伴い外国人の新たな在留資格が設けられ、日本に暮らす外国人の増加が見込まれている。外国人との共生社会に関する調査結果を手がかりに討論を進めてもらった。 資料を基に討論が深まったグループも見られたが、資料の結果で示されている内容と、受験生自身の考えが適切に区別されないまま議論されてしまっているグループもあった。 示された情報をもとに複眼的な視点からテーマを深めること、集団討論する相手と円滑にコミュニケーションを進めること、出された多様な意見を整理しながらまとめていくことなどを期待した。</p> <p>【集団討論 2 回目】 解説:中学校や高校における規則がテーマである。校則の経験に関する調査結果をもとに討論を行ってもらった。 テーマが身近だけに討論はしやすかったようであるが、実体験の話が多くなり、せっかくよい論点が出てその論点を十分に深められなかった。ただ話を広げるでなく、重要な意見が出たときにもっと掘り下げらるとよい。たとえば、なぜ 10 代の経験している校則は他の世代より厳しいのかなど、資料の表の背景から 議論を進めてほしかった。 受験生にとって身近な題材であり、意見を出しやすくはあるが、出てきた</p> |

様々な意見をどのように整理していくかが1つのポイントになる。また調査結果から得られる情報を活用しつつテーマを深められるか、変化の背景や理由を客観的に捉える視点も求められる。

【集団討論3回目】

世論調査による、地域での付き合い方についての意識調査である。生活圏の規模や年齢層によって、異なる意識が見られることの特徴や理由を提供されたデータを参照して比較検証しながら、私たちにとっての地域社会での関係性のあり方について討論を行ってもらった。

データから読み取れる様々な解釈可能性のうちいずれかを発見し、それに着目した理由を含めて説明し、そこから他のメンバーの意見との比較考察を進め、共通の分析からさらに踏み込んだ活発な議論を行うといった点が狙いであったが、実際の討論では内容が自身の経験や意見に偏り、与えられたデータをもとにした論点の定まった討論に至らないことがあった。

解説:人口減少による地方社会や社会動態の著しい変化に対応し、持続可能な未来を築くための様々な政策が試みられているが、地域社会それぞれの個別の特徴に基づく具体的な議論に根ざした提言が乏しいことから、実行力のある結果に乏しいのが現状である。自分たちの生きる社会を一元化することなく、コミュニティ内部の多義性を十分に理解した上で、個別の社会の独自性と多義性を包摂できる地域づくりのあり方を考えることが必要なことを論じ合う契機とした。

3. 受験生の皆さんへ

普段の生活や社会の動きの中から問題点をみつけ、それを言葉にする練習をしておくで集団討論の時に役立つでしょう。友達と話し合ってみるのも良いと思います。自分の意見を持つ、他者とやりとりすることで、多様な視点を理解し獲得することや、問題の捉え方について深めていくことが求められます。またその際には、自分の意見や主張を客観的な論拠や、価値観や意見の異なる他者に対しても訴えかけることのできる具体的な事例を用いるなどの工夫を日頃から意識すると良いでしょう。